

北見武道通信

令和7年9月4日 00759号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】

短編小説「釣り針」①～③ 「釣り針」②

「上人さま、釣れますか」

ある日、そうたずねようとした太郎は、いつも坊主が釣りをしている場所に、坊主の釣りざおと魚を入れる小さいつぼだけ残されているのを目にした。坊主はどこかへ行ってしまっているようだった。

「上人さまはいつも魚が釣れないとおっしゃる。どんなエサをかけているのだろう」

ひょいと好奇心が湧いた太郎は、坊主の釣りざおを手にとってみることにした。

「あれ？」

太郎は不思議に思った。

釣りざおには、エサはおろか、魚を引き上げる釣り針もついていなかった。

「上人さまは変わっていらっしゃる。こんな釣りざおじゃあ、釣れるものも釣れないだろうに」

太郎はなんとも狐につままれたような気分になった。・・・つづく〈ゆいか〉

武道館スタッフ愛子の作品展シリーズ

テーマ「夏の疲れは温泉で・・・」・・・北見市武道館

事務室受付前に展示

武道館スタッフ織田愛子

連載「武道宝鑑」第2弾 磯貝 一 〈柔道指導の心得〉

二、指導上に心得べきこと ○修行の原則 2

もともと寝技は、敏速の活動が立ち技より少なく、随って修行は左程困難ではないが、投技の方はなかなか微妙な呼吸が在って、それを体得するにはなかなか骨が折れる。一口に云えば投げ技の方が修行が難しいのである。従って投げ技に主力を注ぐことが、すべての技を大成せしむる所以で、先ず投げ技から修行させなければならないことが解る。而してまたその投技に於いても、主として練習せしむべきは腰技である。もとより、足技も練習すべし、手業も練習すべきだが、何れの技も體のしまりは腰にあるのである。腰が根本なのである。だから腰が決まらなると、手技も足技もまた捨身技も十分上達することは出来ぬものである。腰技で十分腰を鍛えて置きさえすれば、いつの間にか手技も足技も上達するようになるのものである。然しこれは、原則的に、指導者が考えて指導することであって、初めから足技がきく人の足技をやめさせてしまつてまで腰技をやらせるといふのではなく、また始めから手わざのきく人を無理にその技を封じて腰技をやらせるといふ意味ではない。夫れ等の個人的特徴はどこまでも伸ばして行きつつ、而も腰技も十分に鍛えさせる事が、その足技手技をも上達せしむる所以だといふ意味なのである。つづく

